

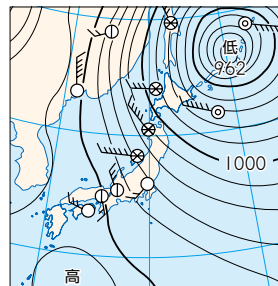


天気予報



日本付近の天気は、(1)のえいきょうで(2)へと移り変わります。このことを利用して、気象衛星の画像などから(3)の動きを予想し、天気を予想することができます。

天気予報では、天気、降水確率、最高気温・最低気温、風向と風速などが発表されます。また、天気の予測にもとづいて、大雨や台風などの(4)も発表されます。



予想天気図の例

天気予報で使われる言葉

【降水確率】

天気予報で発表される(5)は、ある地域で一定の時間内に1mm以上の雨や雪が降る確率のことです。

+ プラスワン

降水確率が30%というのは、30%という予報が100回発表されたとき、そのうちのおよそ30回は雨(または雪)が降るという意味です。降水量を表すものではありません。

【気温を表す言葉】

- 夏日：最高気温が25℃以上の日を表します。
- (6)：最高気温が30℃以上の日を表します。
- (7)：最高気温が35℃以上の日を表します。
- 熱帯夜：夜間の最低気温が25℃以上のことを表します。
- 冬日：最低気温が0℃未満の日を表します。
- 真冬日：最高気温が0℃未満の日を表します。

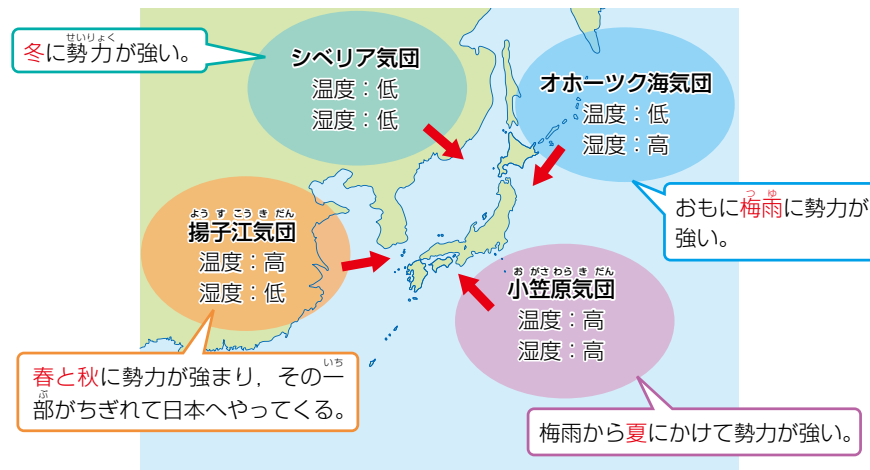
気団



広いはん囲にわたり、(8)がほぼ同じような空気のかたまりを気団といいます。まわりと比べて温度が低い気団を(9)、温度が高い気団を(10)とよびます。

日本のまわりの気団

日本は、すべて(11)の(12)の気団に囲まれています。



- (13)：大陸のシベリア地方で発生します。温度は(14)、湿度も(15)です。(16)に勢力が強くなります。
- (17)：中国の揚子江付近で発生します。温度は(18)、湿度は(19)です。(20)に勢力が強まり、その一部がちぎれて日本にやってきます。
- (21)：北海道の北東のオホーツク海上で発生します。温度は(22)、湿度は(23)です。おもに(24)に勢力が強くなります。
- (25)：日本の南東の太平洋上で発生します。温度は(26)、湿度も(27)です。(28)にかけて勢力が強くなります。

日本付近では、4つの気団の勢力によって、高気圧と低気圧の位置関係((29))が季節ごとに変わり、特ちょう的な天気となります。



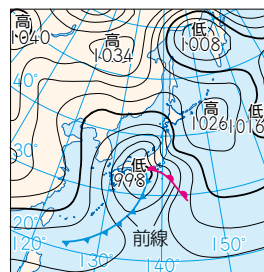
気団の性質は、発生する場所と関係があるのだ。北で発生すると温度が低く、南で発生すると温度が高い。また、海上で発生すると水蒸気をたくさんふくむので湿度が高く、大陸上で発生すると湿度が低いのである。

前線



暖気（あたかい空気）と寒気（冷たい空気）が接すると、はっきりとした境界ができます。このときの境界を(30)といい、前線面が地表と接しているところを(31)といいます。

前線では、寒気は(32)、暖気は(33)。



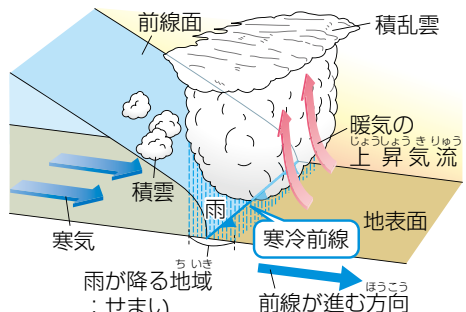
前線の種類

前線には、(34)、(35)、(36)などがあります。

【寒冷前線】

寒冷前線では、寒気の方が暖気よりも勢いが強く、(37)進みます。

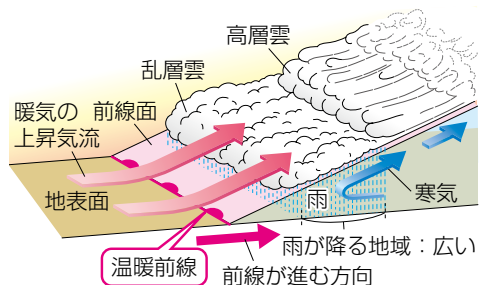
寒冷前線付近では、暖気が急激に上昇し、積乱雲や積雲をつくるため、(38)。前線が通り過ぎると温度が(39)。



【温暖前線】

温暖前線では、暖気の方が寒気よりも勢いが強く、(40)進みます。

温暖前線付近では、暖気がゆるやかに上昇し、乱層雲や高層雲をつくるため、(41)。前線が通り過ぎると温度は(42)。



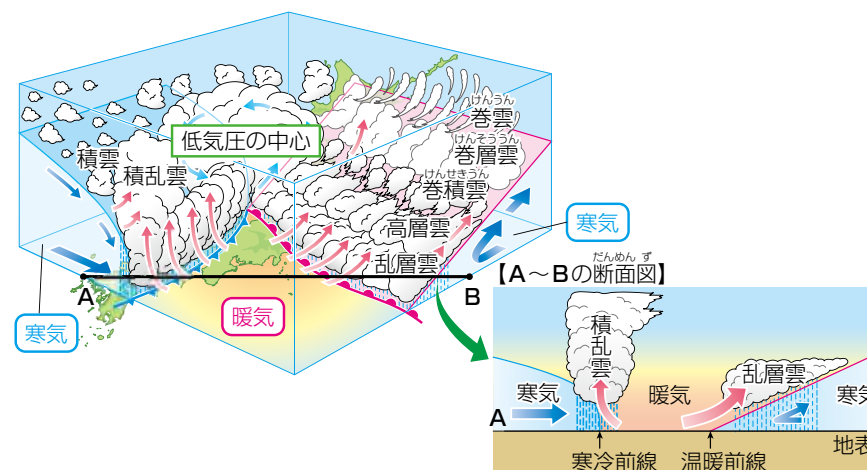
【停滞前線】

停滞前線では、暖気と寒気の勢いがほぼ等しく、前線は(43)。梅雨や秋のはじめごろに多く発生し、それぞれ(44)、(45)とよばれ、長い期間雨を降らせます。

低気圧と前線

低気圧の中心付近では、上昇気流によって(46)します。

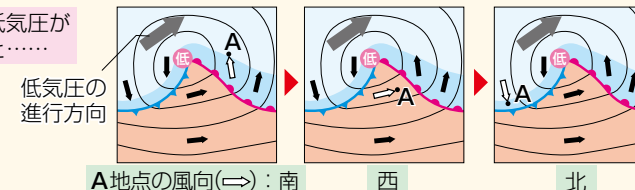
また、低気圧には(47)に風がふきこむので、日本付近では、低気圧の西側では北から(48)が入りこみ(49)ができ、低気圧の東側では南から(50)が入りこみ(51)ができます。



+ プラスワン

低気圧は場所によって風向が異なるので、低気圧の通過にともなって風向が変化します。

A地点を低気圧が通過すると……



(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載していません。